

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員は地域密着型サービスの役割を理解した上で、独自の理念に基づき取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目のつきやすい場所へ理念を掲げ、申し送り時などに確認し合い、日々のサービス提供時反映出来るように取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム玄関先には明示しており、毎月のホーム便りにも記載している為、大分浸透してきたかと思われる。運営推進会議でも、その都度説明しており、地域の人々にも徐所に浸透してきていると思われる。	○ 面会、見学時での説明には十分至っていないので、取り組み強化していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方には、例年通り野菜をおすそ分けし合ったり、ボランティアの方の慰問等も積極的に受け入れ、交流の場も徐所に増えつつある。又、夏になると、近隣の町民によるねぶた運行もホーム駐車場で行われている。	○ 今後も一層交流の場を増やしたり、町会活動への参加等を通じ、なじみの関係作りを築いていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、評価の狙いや活用方法等を理解し、サービスの質の向上に努めている。	○	一人一人が、より良いサービス提供に向けて取り組む姿が多く見られるようになった。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容を改善し、積極的に意見交換が出来る。	○	そこでの意見をサービス向上に活かしていけるよう、職員間の情報共有を密にしていきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を活用している方が一名おられるが、その制度についての理解は乏しい。	○	研修を定期的に関き、学んでいきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修を行ったり、虐待に関するファイルを作成し、虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際、重要事項や退居を含めたホームでの対応等詳しく説明すると共に、ご家族の不安を少しでも取り除けるよう、親身な声かけ、対応を心がけている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情は日々のコミュニケーションを通じ感じていると共に、苦情簿を作成し、苦情があった際は速やかに話し合いの場を設け、ケアの統一に努めている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話での定期的な近況報告をしている。その際、ご家族の要望等取り入れ、ケアサービスに反映させている。金銭管理に関しては、個人の出納帳を作成し、毎月領収書のコピーと内訳をホーム便りと一緒に送付しており、面会時には確認印をお願いしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に要望箱を設置し、意見等を取り入れると共に、運営会議等通して外部からの意見を取り入れたりし、ホームケアの質の向上に努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションや定期的なミーティング、勉強会などを通して、全棟で意見交換、意思統一を図り、ケアに反映できるよう心がけている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員も確保でき、以前に比べゆとりあるケアが行われている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の安心、影響を考え、年1回の異動は今年には行っていない。なじみの関係も深まり、利用者の方にも生活しやすい環境になってきている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に合わせた外部研修を取り入れ、サービスの質の向上につながっている。	○	定期的な内部研修を心がけるも、満足には行えておらず、段階的な研修会を開けるよう今後も努力していきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現在ほとんどない。	○	日々のサービスの向上、職員の育成につながる為にも交流を深める機会を作っていきたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年数回の親睦会や、日々のコミュニケーションを通じ、ストレス軽減に努めている。新人職員にも親睦会参加を勧め、働きやすい環境作りに心がけている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が増員したことにより、心にゆとりを持ち、ケアに取り組めるようになった。それに伴い、仕事に対しての意欲向上にもなり、やりがいを感じているとの声も聞かれている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者と職員が、事前に入居希望者と家族と面談を行う等し、信頼関係を深め、相談しやすい環境作りを心がけている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、本人、家族の意向を十分理解、話し合った上で見合ったサービスが提供できるよう支援している。必要に応じて、他事業所への紹介も行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に可能な方には、見学をすすめており、安心してサービスを受けてもらえるよう、可能な限りのことは意向を支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	定期的なミーティング時や、日頃より言葉づかいや関係作りには気配りするよう声がけており、お互いが不快なく、信頼出来る関係が持てるよう日々取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、面会時や電話時等に交流を深め、行き来、交流しやすい環境作りに全職員心がけている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回のホーム便りの配布、夏祭り等の行事の参加のお願い。定期的な近況報告を通じて、ホームでの生活を身近に感じて頂き、利用者を共に支える関係作りに努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、町会長を務めた男性が入居しており、身寄りがなく、現町会長の方が身元引受人として対応して下さっている。その方を通じ、町内会の慰問旅行への参加、外部との交流も図れている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームには、テーブル、椅子、畳のスペースもあり、なじみの場所として定着している方もいる。利用者の人間関係を把握した上で、その都度席替えし、対応を変えたりし、より良い人間関係作りに努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了すると、その後の交流が途絶えがちだが、必要に応じて対応出来るよう、日々心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションや言動や表情等から思いを組み取り、日常的に話し合いをし、意向に添えるよう努力している。困難な場合や、本人や家族とも不快なく理解しあえるよう支援している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の個人情報や家族の情報を元に、なじみの生活が送れるよう可能な限り支援している。生活環境の変化に伴う不安感を、少しでも取り除けるよう努力している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	情報提供を元に、ホームでの生活パターンと合わせ、極端な環境変化にならぬよう、日々環境作りの工夫に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は日々のコミュニケーション、本人からの意向、職員からの聞き取り、意見交換、家族からの要望等総合的に捕らえ、見合ったケアの提供、計画作成に声がけしている。	○ 家族への説明不足も時々あり、周知にまで至っていない時がある為、徹底を心がけていく。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じての見直しの際は、職員だけではなく、本人や家族との意見交換もし、見直ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日昼夜の記録を徹底しており、ミーティングノートやケアノートにも、気づきや対応策の変更を随時記入し、情報の共有化に努めている。朝、夕、3ユニットでの申し送りをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況、希望に応じて、気兼ねなく外出、外泊出来るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、近隣スーパーにはパンフレットを配布し、ホームの認知度を深めている。随時ボランティアの受け入れ、協力を呼びかけ、行事にも参加して頂いている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している方はおらず、必要に応じて順応していきたい。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身寄りのない男性入居者の身元引受人の方が、現在成年後見人になるべく、研修を受けている最中である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医があり、定期的な受診以外にも緊急時の相談、対応も利用できる体制をとっており、安心した生活が送れるよう支援している。常勤で看護師がいる為、緊急時にも早期発見、対応が出来るている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診時近況報告し、必要に応じて相談、アドバイスしてもらっている。又、認知症の度合いに合わせて、診断や治療の見直しをする等、適切なケアが出来るよう心がけている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤で看護師がおり、医療の知識、対応等の相談、助言をしてもらっている。週1回、訪問看護の方に来てもらい、入居者の健康状態の把握、相談、助言をもらっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、家族、病院関係者ともこまめに連絡をとり、情報の共有に努めている。早期退院に向けての話し合いもこまめにし、万全な体制での受け入れも心がけている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	レベル低下の際は、家族の要望も踏まえた上で、かかりつけ医と話し合い、適切なケアを行っている。かかりつけ医の助言等踏まえ、職員間で話し合いし、不安なくケア出来るよう心がけている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴い、かかりつけ医、職員、家族とも話し合いし、可能な限りのケアを行っていくと共に変化に伴い、いつでも対応出来る体制を整えている。	○	終末期ケアの認識度はまだ浅く、今後も研修等積極的に行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族、友人等から情報を得る事や、なじみの生活に少しでも近づけるよう支援している。	○	適時、アセスメントやミーティングノートに記録に残す事は徹底しておらず、職員間の情報共有があいまいである為、その点を改善していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他棟の事柄でも、申し送りや定期的な会議で知る事が出来、プライバシーを守り、失礼のないようなケアを職員一同心がけている。	○	職員間の私語で、不安や疑念をもたらす可能性もある為、会話する際の場所に気をつけたり、誤解を招くような言動をとらないよう、常時話し合いしていきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々にのペースに合わせた対応、意思決定を心がけ、暮らしやすい環境作りを心がけている。意思表示の難しい方にも、平等な対応を心がけ、個々の意思尊重に努めている。	○	可能な限りのことは、希望に応じるよう努めているが、団体での生活上、希望にそぐわず不満に思われている方もいる為、コミュニケーションを深め、必要に応じては家族と相談しながら、可能な限り対応出来るよう支援していきたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活レベルに合わせて対応しているものの、職員の都合で時により、一方的なケアになっている時もある。	○	その都度説明し、理解してもらおうと共に、改善策を職員間で話し合いし、暮らしやすい環境作りを心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回床屋さんが来訪する他、金銭面や外気浴、気分転換も兼ねての近隣の低料金の床屋さんへ徒歩や車で出かけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をする体制にはなっていないものの、手作りおやつ時には共に作り、食べ、楽しみを共有している。刻み食の方にも、咀嚼レベルに合わせて形態を変えたり、盛り付けを工夫したりし、目でも楽しめる食事を目指している。	○	年齢的な事などで食欲低下した女性入居者には、1枚皿ですむよう、プレートに盛り付け、量が多く感じ、意欲が低下しないよう工夫している。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人や家族の要望に合わせて、可能な限り提供している。定期的な外出の際は、一緒に同行してもらい、本人の意思決定を促している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンを把握している。状況に合わせて下剤を提供したり、水分補給を多めにしたりと気持ちよく排泄出来るよう、日々努力している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お湯の温度、入浴時間、シャワー浴等個々のペース、状況に合わせて対応している。ゆっくり気持ちよく入浴してもらえるよう、声がけにも工夫し、職員本位のペースにならないように心がけている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方を個々に合わせて工夫し、夜間安眠を目指している。不眠時は、ホットミルクや談話等で安心感を与えると共に、不眠の原因を探求し、必要に応じたケアを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花札、トランプ、けんだま等昔遊んだなじみの物を常時置いており、いつでも楽しめるような体制を整えている。個々の希望内容によっては、家族にも相談、協力してもらい、楽しみ、生きがいを持って生活出来るよう支援している。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を持っている方は、買い物時自力で支払いしている。それ以外の方はホームで管理しており、必要時金庫より出して頂き、支払い、袋詰めまでお願いしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外気浴や散歩を取り入れている。受診等ない日は、入居者の方と話し合いし、可能な限り行きたい場所へ出かけたり、買い物に行ったりしている。	○	外出する方が偏ってしまい、出来ていない方もいる為、ドライブや個々に合わせて可能な限りの外出支援していく。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前町会長をしていた方には、町会の催し物に参加してもらったり、入院中のお孫さんのお見舞いにタクシーを利用して出かけたりと、個々の希望になるべく添うよう努力している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話や手紙の希望があった際は、その都度対応している。年に数回、遠方の家族より手紙が届く方には、お礼の電話で交流をとだえないようにしている。年賀状での交流も率先して支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、家族へは近況報告し、情報交換をしている。個々の希望にあわせ、居室やホールで交流を深めて頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会、資料配布等し意思統一を図っている。状況に応じて行う際は、家族等へ説明、同意、記録している。	○	定期的な話し合いの場を設け、身体拘束をしないケアの意思統一をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけずにいるが、建物の構造上死角になっている為、職員の手薄時や、緊急時にはやむを得ずかけている時もある。	○	様々な工夫をし、鍵をかけない生活が送れるよう、随時職員間で話し合いをしていく。鍵をかける事が日常化にならない声かけ、話し合いの場を設けていきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、台所、ホールでの業務を主とし、適時対応出来るよう目配り、声がけしている。二階のある為、夜間は安全柵を使用しているが、物音等したらすぐ対応出来るよう細心の注意を払っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症高度な方もいる為、想定外の事も踏まえ、危険物は手の届かない所等で管理し、安全確保に努めている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時には、速やかに報告書を提出してもらい、必要に応じてかかりつけ医に相談、受診したり、家族へ電話し現状報告している。定期的な会議や各棟での申し送りを通し、情報の共有、再発防止に向けて話し合いをしている。	○	報告書を基にしたの会議は十分行なっていなかった為、今後は意見交換を含ませる会議も行なっていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	以前、消防署で催している救急救命の研修に定期的に参加し、内部研修を通し、全職員に伝達していた。	○	現在定期的な研修を行っておらず、新人職員も数名おられるので、再度研修報告会を行い、全職員が周知出来るようにしていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練や消火器の取り扱い等確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクについて説明すると共に、状態変化時等にもその都度報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りやケアノート等を通して、日々の変化に対応出来るようにしている。異変時は早期発見、対応出来るように細かい気配りをしていく。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法は、薬局より頂くお薬手帳、処方箋を参考にし、一人ひとりの状況を把握出来るようにしている。変化時は、薬局へ電話し、気軽に相談出来るような体制である。	○	全職員が把握しているまでには至っておらず。再確認の上でも定期的に話し合いの場を設けて行きたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排泄パターンに応じて、運動量や食事形態を工夫したり、必要時には下剤等で対応している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全入居者が口腔ケア1日2回行っているとは言えず。清潔保持の上でもまめに行なって行きたい。必要時、歯科受診、往診も行なっている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保出来るよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、バランスよく食事が出来るようになっている。体調不良時は、その都度形態や量を変えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアル作成し、冷蔵庫や目のつく場所へ貼付し安全確保に努めている。異変時は、自分たちだけで判断せず、専門医等にも相談し、早期発見、対応に努めている。	○	研修会は行わず、資料配布のみであり、話し合いの場を設ける必要があると思われる。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの徹底や冷蔵庫での保存をし、衛生、食品管理に努めている。食材の傷み具合などその都度判断し破棄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植物や、飾り物を工夫し、生活感が出るようにしている。	○	殺風景にならないよう、定期的な模様替え等工夫していく。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、入居者主体の生活が送れるよう声がけ、対応に工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル以外にも畳の部屋があり、なじみの場所として定着している方もいる。	○	渡り廊下の空間を上手に利用し、気軽に行き来出来るような工夫をしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	○	職員によっては対応、声かけがまちまちであり、 それに伴い、不安を抱く方もいるためケアの統一 に努めていきたい。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	○	外気浴は他棟に比べ少ないと思われる為、積極的 に参加を促していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)